

【玉江小学校のご紹介】

【校章の由来】

玉江という名称は、昔、玉江付近の山すそまで海が入り込んで入江をなしており、この平和な玉里の「玉」と入江の「江」をとって玉江と命名したと伝えられています。

校章は、145年前に創立された本校の「円満な人格の完成をめざす」という教育目標を「玉」で象徴し、全体をまるくかたどり、あたたかく児童を見守っているという意味がこめられています。



【公式キャラクター】

平成30年度、玉江小学校創立140周年を記念して、新公式キャラクターが誕生しました。本校の校章から図案化したもので、「あさひ」「みらい」と名付けられました。



【校区の概要】

玉江小学校は、明治11年、下伊敷字脇ノ谷に大平小学校として開校されて以来、校名の改称は7回、その位置も3か所かわり、その間、草牟田にあった鶴尾小学校を合併しながら発展してきました。

学校が現在地に移る前は、甲突川対岸のハートピアかごしまの位置にあり、現在地に移転したのは、昭和36年4月です。戦前ここには、鹿児島第45連隊の兵営があり、校門前方の自動車学校や旧西高校あたりの広い土地が練兵場で、多くの兵士たちが日夜厳しい訓練を受けたところです。

学校の正門、校内入口付近の池や古い石垣の塀、大きな銀杏の木などは、当時の面影をそのまま残しています。連隊がここに入ったのは、明治30年3月でしたが、戦後軍隊の廃止とともに、この兵営の跡に鹿児島大学や附属中学校の校舎が建てられ、その後、鹿児島大学の移転により、玉江小学校が移ってきました。

以来、県立短大、県立工業高校、鹿大附属特別支援学校や伊敷中学校などの学校が次々に建設され、現在は、幼・小・中・高・大それぞれの学校が隣接する文字どおりの学園の町になっています。

昔からの農業地帯であった小野には、現在農業をする人は少なく、かつて農地だった所は住宅地になっています。国道3号線沿いは、市街地への幹線であることから人通りも多く、商店街として発展してきました。校区内には、市営住宅や公務員住宅、アパートやマンションが建ち並び、住民も会社員や公務員で占められています。(市電は昭和60年9月30日廃止)

【沿革史(主なもの)】

明治11.	下伊敷脇ノ谷に大平正則小学校創立	34. 8.	鹿児島大学教育学部跡に全校移転し、開校式並びに開校式を行う
22.	玉江小学校と改称	36. 3.	校歌を制定する
	旧玉江校位置移転(小野町28)	36. 7.	実習田記念碑並びに二宮金次郎像再建立
23.	草牟田墓地入口にあった鶴尾小学校を合併	38. 11.	創立85周年記念式典祝賀会(放送施設、エレクトーン、テレビ7台購入)
25. 10.	伊敷尋常小学校と改称	46. 9.	鉄筋プール竣工
28. 3.	高等科を併置し、伊敷尋常高等小学校と改称	53. 11. 17	創立百周年記念式典挙行(アスレチック・TVカラー放送施設完備)
33.	伊敷大平田(現在の伊敷小の地)に高等科を独立建設し、残る尋常科のみで伊敷尋常小学校にものす	63. 11. 17	創立110周年記念式典挙行・創立記念同演劇会(元、3、4)
37.	伊敷に尋常科ができたため、玉江尋常小学校と改称	平成元. 3. 17	プール改築・体育倉庫新築
38.	火災のため校舎焼失	2. 3. 26	屋内運動場新築落成
39.	校舎改築	5. 8. 6	水害により体育館が避難所となった(8月中)。床上浸水以上の被害を受けた児童数196人
大正 5. 11.	大正火災のために校舎2棟消失	10. 11. 18	創立120周年記念式典挙行・記念誌刊行(11.3.10)
11. 3.	火災のために校舎焼失	17. 9. 22	学校ピオトープ(手作りの水車、ベンチ・テーブル)設置
11. 4.	高等科付設玉江尋常高等小学校と改称	18. 3. 15	学校ピオトープ(水辺活動水路等工事)
昭和16. 4.	昭和玉江国民学校と改称	21. 2. 1	創立130周年記念式典
22. 4.	学制改革により玉江小学校と改称	22. 10. 15	太陽光発電装置設置工事完了
22. 12.	父母と教師の会結成、学級給食開始	25. 2. 21	全教室にクーラー設置
25. 1.	学校林を設ける	30. 12. 1	創立140周年記念行事(PTA講演会・11のちと夢のコンサート)
25. 10.	伊敷村が鹿児島市に編入され、鹿児島市立玉江小学校と改称	令和 4. 3. 11	プール新築工事
34. 4.	校舎不足のため本校23学級(2.4.5.6年)、大学教場13学級(1.3年)、児童数1,773名職員40名		

【ご挨拶】

玉江校区あいご会 会長 米山 太助

玉江校区あいご会では、鹿児島市あいご会連合会基本方針・スローガン【みんなが楽しむあいご会】を受けて、17の単位あいご会、そして、校区あいご会が「楽しむ」をキーワードにさまざまな活動の計画を工夫し、実施してきました。特に、3年ぶりの開催となった体育大会のドッジボール(児童の部)とミニバレー(一般の部)は、大変盛り上がりました。玉江小創立145周年記念大会として、お菓子のトロフィーなども用意され、思い出に残る大会となりました。

学校と連携して、夏休みに「あいごキャラクター」の募集を行い、あいご会についてあらためて考え直したり、身近に感じたりするきっかけとなったようです。

今回の発表を機に、今後のあいご会の活動等について様々な意見に触れ、心豊かでたくましい子どもたちの育成に一步前進できればと考えます。

結びに、私たち玉江校区あいご会連絡協議会を支えてくださっている鹿児島市あいご会連合会、鹿児島市教育委員会をはじめ、関係の皆様へ感謝申し上げます、あいさついたします。



玉江小学校 校長 佐々木 好彦

私は、南薩の小さな町で生まれ育ちました。母校は、児童数が少なくなり、現在近隣4校と統合合併し、今でも鮮明に覚えている校歌も歌われることがなくなっています。

6年間の数々の思い出があるはずですが、なぜか思い出すのは、集落ごとに行われていた「子ども会」の取組です。いくらか趣旨が違ってもかもしれませんが、鹿児島市の「あいご会」に当たるものだと思います。9月の十五夜の夜には、綱引きが行われ、勝ち抜き戦の相撲をとっていたことを思い出します。祭りではリヤカーに乗せた神輿を引き、賽銭箱を担いでそれほど大きくない街を練り歩きました。夏休みには、集落対抗のソフトボール大会が開かれ、小さな集落だったため男女混合のチームで戦いました。バスを借りて隣のホテルまでの遠足があり、プールやすいか割りを楽しんだこともいい思い出です。

子ども会の取組は、下の子どもたちを思いやった言動があり、下級生は上級生に憧れをもついい関係があったからこそ思い出に強く刻まれているように思います。

本校では、50年ほど前の私の思い出を思い起こしてくれるような取組が米山会長をはじめ単位あいご会の皆様のご努力で受け継がれてきています。私のような思い出が子どもたちの心のどこかに残り、人生を支えてくれることを願ってやみません。

令和5(2023)年度 玉江校区あいご会 研究公開

【校訓】
のぞみ 大きく
たくましく



やる気登校 満足下校 楽 令和6年2月10日(土)

《式次第》

- ☆ オープニング
- 一 開会行事
 - ・ 開会のことば
 - ・ 開会のあいさつ
- 二 あいご会活動報告
- 三 質疑応答
- 四 グループ協議・情報交換
- 五 講評
- 六 閉会行事
 - ・ 閉会のあいさつ
 - ・ 閉会のことば

鹿児島市あいご会連合会会長 西村 光行
玉江校区あいご会連絡協議会会長 米山 太助
玉江校区コミュニティ協議会会長 飯田 博

鹿児島市教育委員会青少年課長 吉元 利裕



楽しい活動いっぱいのあいご会活動